

2018年度事業報告

公益社団法人部落問題研究所

1. 部落問題・人権問題に関する各種の調査研究

(1) 部落問題の歴史的研究（主任研究員 塚田孝・竹永三男）

地域における人権・民主主義をめぐる状況や運動の今日的展開をふまえながら、部落問題を前近代から現段階までの歴史展開の総過程の中で位置づけるとともに、各時代の全社会構造の中で具体的に把握する研究に取り組んだ。

前近代分野では、身分的周縁研究と「賤民」身分研究を、地域社会の構造とその展開との関連において、また身分（制）社会全体の構造の中でとらえること、近現代分野では、人権と民主主義の歴史的展開とその特質を明らかにすることを軸とした地域史の再構成をめざすことや、近現代日本の人権問題とそれに関連する社会運動を解明すること、などの方針をそれぞれ掲げて、以下のとおり研究を進めた。

ア. 科学研究費助成事業（科研費）の交付を受けて遂行した研究

①「近世・近代の「行き倒れ」とその救済の歴史的特質の究明」（研究代表者・藤本清二郎、基盤研究（C）2018～2020年度）

新規に採択され、2018年度は4回の研究例会を開催して合計7報告を得た。

②「都市部における教職員組合運動と教育実践—大阪・京都・奈良の比較史的考察—」（研究代表者 坂井田徹〔森下徹〕、基盤研究（C）2018～2021年度）

新規に採択され、研究対象とする大阪・京都・奈良の教職員組合運動などに関する資料状況の確認などに着手した。そのうち、特に奈良県教職員組合の所蔵資料など奈良県関係資料の整理・調査作業が進展し、同作業に参加した竹末勤氏らによる調査・研究の成果の一端は、第56回部落問題研究者全国集会全体会（10月27日）での竹末氏の報告「地域における民主主義共同の発展と部落問題の解決—1970年代～80年代の奈良県を事例に—」および岡田雅一氏のコメントとして発表された。

イ. 歴史研究会及び科研費①の研究例会の開催（会場は部落問題研究者全国集会及び明記したものを除くは部落問題研究所／※は科研費①研究例会）

2018年

6月22日 於 大阪市立大学文化交流センター

竹末勤・岡田雅一：奈良県部落問題解決最終過程の進行（その1）

—1970年代の動向—

7月29日（※）

藤本清二郎：紀州藩における旅人病人継ぎ送り政策の展開過程

8月10日

竹末勤：地域における民主主義共同の発展と部落問題の解決

—1970年代～80年代の奈良県を事例に—

コメント 梅本哲世、岡田雅一

10月28日 第56回部落問題研究者全国集会／歴史I分科会

ジョン・ポーター：明治初期東京における家畜伝染病と斃獣処理
書評：三田智子著『近世身分社会の村落構造—泉州南王子村を中心に—』を読む
(コメント：牧原成征、町田哲、マーレン・エーラス／リプライ：三田智子)

10月28日 第56回部落問題研究者全国集会／歴史Ⅱ分科会

高田雅士：一九五〇年代前半の地域社会における「デモクラシー」
—東京都北多摩郡国立町の運動から—

中村 元：占領期大都市近郊都市における「デモクラシー」と地域
—東京都八王子市を事例に—

2019年

1月12日 (※)

松浦智博：近世宿駅研究からみた行き倒れ

大杉由香：近現代日本の連帯と救済の歴史にみる生存と国家・社会
—命と生存の格差が容認される現代社会の形成過程とその構造的特質—

1月26日 (※)

小川信雄：埼玉県熊谷町役場文書の行倒病死入史料について

竹永三男：行旅病人・行旅死亡人関係公文書（県庁文書・町村役場文書）の保存・
公開状況—全国の公文書館調査から—

3月 3日

飯田直樹：大阪府方面委員制度と警察社会事業

3月22日 (※)

藤本清二郎：紀州藩における乞食非人・巡礼の行き倒れについて

大杉由香：戦前期から戦時期の都市部におけるインテリ層が運営した児童愛護N P
Oの実態—大阪児童愛護聯盟機関誌『子供の世紀』から見えてきた民間児童愛
護事業の役割と限界—

ウ．学術論文等の発表

『部落問題研究』に、上記科研費研究の成果をはじめ、前近代・近現代の歴史研究
の成果を掲載した。

『部落問題研究』226輯

町田哲：遍路をめぐる三つの肖像

吉元加奈美：近世大坂における都市社会構造

『部落問題研究』227輯

藤本清二郎：近世における移動・行き倒れの構造（試論）

大杉由香：近現代日本の連帯と救済の歴史にみる生存と国家・社会

石橋知之：研究ノート 摂津国神戸村における「行き倒れ」

松浦智博：近世柏原宿における行倒人処理 [投稿論文]

(2) 現代部落問題論・人権論の研究

研究の重点として、①「特別法」にもとづいて実施された同和行政の検証、②人権問題
意識調査の検討、③「部落差別解消推進法」をめぐる問題、④ヘイトスピーチ問題、⑤地
域における人権諸課題、をあげて研究を進めてきた。

【現代部落問題論・人権論研究会】※会場は部落問題研究所

4月27日 矢頭正明：NPO法人茨木高齢者の会の活動と今後の課題

3月29日 丹波正史：「部落問題解決の四つの指標」（21世紀をめざす部落解放の基本方向）を原理的に考える

【部落問題研究者全国集会／現状分析・理論分科会】※会場は同志社女子大学

10月28日 荻原園子：生江孝之と部落問題・再論

矢頭正明：高齢者の人権を守る活動の経験と教訓

鈴木 元：京都高齢者大学校の取組みと課題

(3) 人権と教育に関する理論的・実証的研究

ア. 科学研究費助成事業（科研費）の交付を受けて遂行している研究

「人権教育における人権認識の内容と形成過程に関する基礎的研究」（研究代表者・梅田修、基盤研究〈C〉2018年～2020年）に基づく一年目の研究を推進した。

イ. 各種の研究会での報告

【教育研究会】※会場は部落問題研究所

教育研究会では適宜例会を実施してきた。各会のテーマ及び報告者は次の通りである。

4月22日 杉浦 真理：新学習指導要領の課題の一考察—新教科「公共」の問題点

7月 1日 大八木賢治：中学校道徳教科書はどうなっているのか

9月16日 梅田 修：人権教育をめぐる動向と道徳教育

12月 2日 河原 尚武：教科道徳に関する今後の論点

2月 2日 渡辺 雅之：道徳教育のベクトルを変える—国家の道徳から私たちの道徳へ

【部落問題研究者全国集会／教育分科会】※会場は同志社女子大学

第56回部落問題研究者全国集会「教育」分科会では、テーマ「道徳の特別教科化と人権教育」にもとづき、次の報告と討議を行った。

10月28日 得丸 浩一：道徳教育の現場で何が起きているか

森田 満夫：道徳教育と人権としての教育

ウ. 学術論文等の発表

科学研究費助成事業（科研費）による「人権教育における人権認識の内容と形成過程に関する基礎的研究」（研究代表者・梅田修、基盤研究〈C〉2018年～2020年）を推進し、2018年度は次の論稿を発表した。

八木英二「キー・コンピテンシー再定義と新旧学習指導要領」（『部落問題研究』第228輯、2019年3月）

(4) 人権に関わる文芸の研究

【文芸研究会】※会場は部落問題研究所

2カ月に一度、例会（第208～212回）を開催してきた。各回の日時およびテーマは次に示すとおりである。

第208回（4月15日） 三遊亭円朝作『蝦夷錦古郷の土産』を読む

第209回（6月17日） 中上健次作『千年の愉楽』を読む

第210回（9月18日） 中上健次作『枯木灘』を読む

第211回（1月13日） 小林綾著『部落の女医』を読む

第212回（3月17日） 秦重雄編『谷口善太郎・執筆年表（著作目録）』を読む

上記例会における報告と討議の主な内容は、毎回発行の「文芸研究会ニュース」に掲載している。また、月刊誌『人権と部落問題』に掲載の「文芸の散歩道」は本研究会が担当しており、1999年10月以来、220回を数えている。

【部落問題研究者全国集会／思想・文化分科会】※会場は同志社女子大学

第56回部落問題研究者全国集会／思想・文化分科会では、〈テーマ：「路地」の生みの親・中上健次の「部落観」を問う〉に基づき、次の報告と討議を行った。

10月28日 秦重雄：「路地」の生みの親・中上健次の「部落観」を問う

2. 部落問題の解決過程に関する研究成果の普及

部落問題研究所創立60周年を記念して「部落問題解決過程の研究」の共同研究を実施した。研究成果は、『部落問題解決過程の研究』第1巻（歴史篇）／『部落問題解決過程の研究』第2巻（教育・思想文化篇）／『部落問題解決過程の研究』第3巻（現状分析・理論篇、資料篇Ⅰ）／『部落問題解決過程の研究』第4巻（資料篇Ⅱ）に続いて、『部落問題解決過程の研究』第5巻（年表篇）を刊行（2016年度）して、全巻完結した。

全5巻とともに、共同研究の成果を反映させた、部落問題研究所編『ここまできた部落問題の解決』（2017年刊行）を刊行し、普及に努めてきた。

3. 部落問題研究者全国集会などの開催

2018年10月27日（土）～10月28日（日）に、同志社女子大学（京都市）で、114名の参加を得て開催した。

（1）全体集会（1日目）は、2部構成で開催した。

第1部「部落問題研究所70年の歩み」では、次の2つの報告があった。

東上高志「部落問題研究所の70年と部落問題研究」

成澤榮壽「外から見た研究所と内から見た研究所」

第2部「地域における民主主義の成長と部落問題の解決過程」では、次の2つ報告とコメントがあった。

竹末 勤「地域における民主主義の共同の発展と部落問題の解決過程」

—1970年代～80年代の奈良県を事例に—

コメント 梅本哲世、岡田雅一

梅田 修「住民の自立と地域の教育力—和歌山県の同和地区に即して」

（2）分科会（2日目）は、5つの分科会（歴史Ⅰ・Ⅱ、現状分析・理論、教育、思想・文化）ごとに報告・討論をおこなった。

4 図書資料の収集・保存・整備及び資料紹介に関する事業

(1) 部落問題関係図書・資料の収集

井本三夫『米騒動という大正デモクラシーの市民戦線』（現代思潮社）などの図書を購入した。また、多数の図書・資料の提供を受けるとともに、歴史、現状、運動、行政、人権、教育、文芸等に関する資料の収集を進めた。

(2) 資料室の整備・充実

第1資料室（開架式）の書架の整理、目録カードの入力は完了した。第2資料室（閉架式）開設の準備として、未整理の図書・資料や視聴覚資料を整理し、目録の作成を進めた。

(3) 関係図書の紹介

『人権と部落問題』『部落問題研究』『会報』において、関係資料の紹介をおこなった。

5. 機関誌・研究紀要・学術図書等の刊行

(1) 『人権と部落問題』（月刊）を毎月2300部、年12回を編集・刊行した。

特集のテーマは、次の通りである。

「道徳教科化のねらいと対抗軸」（4月号）

「加速する改憲策動」（5月号）

「『明治150年』を問う」（6月号）

「戦後部落問題の分岐点（6）—それぞれの分岐点」（7月号）

「世代を超えて平和を紡ぐ」（8月号）

「『部落差別解消促進法』をめぐる争点」（9月号）

「部落問題研究所創立70周年」（10月号）

「生活保護基準の切り下げと生存権」（11月号）

「女性と人権」（12月号）

「『働き方改革』と労働者の人権」（1月号）

「民族教育の権利—在日コリアンの現在」（2月号）

「日本の『人権問題』対策を問う」（3月号）

連載「世界のくらしと文化」のテーマは、次の通りである。

「コスプレイヤー①中国 パフォーマンスをするコスプレイヤー」（4月号）

「コスプレイヤー②日本 国を代表するコスプレイヤー」（5月号）

「コスプレイヤー③日本 写真撮影を楽しむコスプレイヤー」（6月号）

「コスプレイヤー④スペイン マンガと名乗るコスプレイヤー」（7月号）

- 「神戸市南京町① 中華らしいハード面景観の整備」 (8月号)
- 「神戸市南京町② イベントによる南京町らしさの創出」 (9月号)
- 「神戸市南京町③ 時代とともにあゆんできた老華僑」 (10月号)
- 「神戸市南京町④ 新しい時代を迎える新華僑」 (11月号)
- 「ペルー共和国① アンデスの地の漁民の暮らしに迫る」 (12月号)
- 「ペルー共和国② ワッケーロの住む村」 (1月号)
- 「ペルー共和国③ 遺跡のかたわらで魚を釣る」 (2月号)
- 「ペルー共和国④ 村に残る日本人の墓」 (3月号)

(2) 紀要『部落問題研究』の225輯、226輯、227輯、228輯を各500部刊行した。主な論考は、次の通りである。

- 225輯 第55回部落問題研究者全国集会報告
- 226輯 町田 哲「遍路をめぐる三つの肖像」
吉元加奈美「近世大坂における都市社会構造」
成澤 榮壽「ラフカディオ・ハーンの世界に見る部落問題」
- 227輯 藤本清二郎「近世における移動・行き倒れの構造(試論)」
大杉 由香「近現代日本の連帯と救済の歴史にみる生存と国家・社会」
石橋 知之「撰津国神戸村における『行き倒れ』」
松浦 智博「近世柏原宿における行倒人処理」
- 228輯 八木 英二「キー・コンピテンシー再定義と新旧学習指導要領」
牧原 成征「畿内の太閤検地とかわた村」
町田 哲「三田智子著『近世身分社会の村落構造』に学ぶ」
マーレン・エーラス「書評：三田智子『近世身分社会の村落構造』」
三田 智子「泉州王子村研究の進展のために」

(3) 関係図書編集と刊行

1. 東上高志『部落問題解決過程の証言—研究所の70年を中心に』(2018年10月)
2. 大阪教育文化センター「部落問題解決と教育」研究会『学びなおしの部落問題—教育により新たな差別を生むことのないように』(2018年10月)
3. 成澤 榮壽『小泉八雲のヒューマニズム精神とその変容—部落問題記述を中心に』(2018年11月)

6. 法人の機能を活用した各種サービス

(1) 『新生』(島崎藤村)の輪読会の開催

『東方の門』(島崎藤村)輪読会に続いて、2018年6月3日より、原則として毎月1回『新生』輪読会を開催してきた。2019年3月で10回となった。各回10名前後の参加者があった。

(2) 研究会の開催

歴史、現代部落問題・人権論、教育、文芸の各分野ごとに研究会を開催した（詳細は、各種の調査研究の項を参照のこと）。

※会場は明記したもの以外は部落問題研究所

- 4月15日 文芸研究会
- 4月22日 教育研究会
- 4月27日 現状分析・理論研究会
- 6月17日 文芸研究会
- 6月22日 歴史研究会（大阪市立大学文化交流センター）
- 7月 1日 教育研究会
- 7月29日 歴史（科研費）研究会
- 8月10日 歴史研究会
- 9月16日 教育研究会
- 9月18日 文芸研究会
- 10月27日 第56回部落問題研究者全国集会 全体会（同志社女子大学）
- 10月28日 第56回部落問題研究者全国集会 分科会（今出川キャンパス）
- 12月 2日 教育研究会
- 1月12日 歴史（科研費）研究会
- 1月13日 文芸研究会
- 1月26日 歴史（科研費）研究会
- 2月 2日 教育研究会
- 3月 3日 歴史研究会
- 3月17日 文芸研究会
- 3月22日 歴史（科研費）研究会
- 3月29日 現状分析・理論研究会

(3) 講師の斡旋

部落問題・人権問題の講師派遣については、全国地域人権運動総連合（人権連）主催「地域人権問題全国研究集会」への講師要請に毎年応えているのをはじめ、「部落差別解消推進法」に係わって開催されている人権連の各種集会や学校現場での研修への講師要請に応えてきている。

(4) 関係資料の閲覧・貸し出し

部落問題・人権問題に対する資料の貸し出し要請に対応してきた。

(5) 相談活動

部落問題・人権問題に対する各種相談に対応してきた。

7. 目的を同じくする各種機関・団体との連絡・協力

全国各地で活動している研究機関・研究会などと連絡を密にして、研究・調査・学習などの事業について、協力関係を発展させてきた。

8. 役員会等の開催

(1) 臨時総会の開催

2019年3月21日（木／祝）に臨時総会を開催して、次の議案を審議し、議決した。

- ① 2019年度事業計画
- ② 2019年度資金調達及び設備投資の見込みについて
- ③ 2019年度収支予算

(2) 役員会

1) 理事会を10回開催して、研究所の事業運営について審議し、執行した。

第1回 議事 ① 理事長・常務理事の選出

(5月13日)

第2回 議事 ① 部落問題研究所の中・長期方針について

(6月23日)

- ② 財政の改善に向けて
- ③ 部落問題研究所の新体制について
- ④ 役員の旅費支給について
- ⑤ 所蔵資料の整理作業について
- ⑥ アマゾンとの取引について
- ⑦ 将来検討委員会の開催について

第3回 議事 ① 部落問題研究所所内体制規程の改定について

(7月29日)

- ② 部落問題研究所の業務（別表1）の改定について
- ③ 役員の通勤に要する費用の支給規程について
- ④ 研究活動について
- ⑤ 事業活動について
- ⑥ 編集活動について
- ⑦ 監査業務について

第4回 議事 ① 財政活動について

(10月27日)

- ② 水平社創立100年について
- ③ 将来検討委員会の開催について

第5回 議事 ① 財政活動について

(12月1日)

- ② 会員拡大について
- ③ 事業活動について
- ④ 研究活動について
- ⑤ 水平社創立100年について
- ⑥ 将来検討委員会の開催について
- ⑦ 部落問題研究所の体制について

- 第6回 議事 ①財政活動について
(1月26日) ②会員拡大について
③事業活動について
④水平社創立100年について
⑤将来検討委員会の開催について
⑥出版契約に関する内規の改定について
⑦部落問題研究所の体制について
- 第7回 議事 ①2019年度事業計画(案)
(3月3日) ②資金調達及び設備投資の見込みについて
③2019年度予算(案)
④募金活動
⑤将来検討委員会の開催について
- 第8回 議事 ①2019年度事業計画(案)
(3月21日) ②2019年度資金調達及び設備投資の見込みについて
③2019年度予算(案)
④「役員の通勤に関する費用の支給規程」の改定について
⑤事業活動について
⑥会員拡大について
⑦アマゾンとの契約について
- 第9回 議事 ①2018年度事業報告(案)
(4月27日) ②2018年度決算(案)
③理事・監事の選任について
④「公益社団法人部落問題研究所所内体制規程」の改定について
⑤会員拡大について
- 第10回 議事 ①2019年度定時総会議案について
(5月12日) ②理事・監事の選任について
③理事長・常務理事の選任について
④2019年度理事会・総会の日程について

2) 監事(4名)は、4月19日(金)に、2019年度定時総会(5月12日)に附議する業務執行状況、財産状況について監査し、これを承認した。

(3) 委員会

2018年度より、四つの委員会体制(編集委員会・研究委員会・財政委員会・事業委員会)をとっている。2018年度は、編集委員会を12回、研究委員会を6回、財政委員会を5回、事業委員会を5回開催し、所管の事項を審議した。

(4) 所内会議

役職員全員による所内会議を1回開催し、部落問題研究所の運営について適宜協議した。

(5) 将来検討委員会

2016年7月18日に発足した第二次将来検討委員会は、2016年度は5回、2017年度は3回、2018年度は1回開催した。2019年度以降は年2回開催する予定である。

(6) 会員の異動状況

2017年度末会員は、合計388名であった。内訳は、A会員（会費12000円）296名、B会員（会費6000円）24名、賛助会員B（会費50000円）19名、賛助会員C（会費20000円）48名、特別会員1名である。

2018年度は、A会員が45名減少した（内訳は、A会員から賛助会員Cへの移行が27名、A会員からB会員への移行が2名、退会が25名、入会が9名である）。B会員が12名増加した（内訳は、A会員からB会員への移行が2名、入会が11名、退会が1名である）。賛助会員Bは19名で、増減はなかった。賛助会員Cが25名増加した（内訳は、A会員から賛助会員Cへの移行が27名、退会が2名である）。この結果、2018年度末会員は、合計380名である。

B会員が増加しているものの、A会員の減少が続いており、B会員とともにA会員の拡大が特に重要な課題となっている。

(7) ボランティアの協力

2018年度は、2名の協力があつた（元高校教師/元高校職員）。週1回勤務してもらっている。